

国語

5月27日(水)

言葉で遊ぼう

P.46

音読 ●「言葉で遊ぼう」を音読しよう。

視写 ●⑤の部分(P.49の10行目~15行目まで)を視写しよう。

活動 ●前回の国語のときにこの説明文は

①言葉遊びには **ほかにどのようなものがあるか。**

②言葉遊びには **どのような楽しさがあるか。**

という2つのことを説明しているということを学習しました。

その「説明」にあたるぶ分を、教科書の中に線を引きましょう。

おわり 中 はじめ

言葉で遊ぼう

小野 恭靖

① みなさんは、しりとりにや早口言葉で遊んだことがありますか。これらは、古くから多くの人に親しまれている言葉遊びです。言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。また、どのような楽しさがあるのでしょうか。

② にた音や同じ音の言葉を使って文を作るのが「しりとり」です。たとえば、「ふとんがふとんだ」「イクラはいくらだ」がそうです。しりとりは、「ふとん」と「ふとんだ」や、食べ物「イクラ」と「イくらねだんをたずねる」「いくら」のように、にた音や同じ音の言葉を使って作られます。言葉は、にた音や同じ音であっても、意味ががらうものがあります。しりとりには、言葉のもつ音と意味を組み合わせるといふ楽しさがあるのです。

③ 上から読んで下から読んで同じになる言葉や文が「回文」です。回文には、「きつつき」や「しんぶん」のような短い言葉もあれば、「わたしたわしたわたしたわ」のように長い文のものもあります。回文にならしている言葉や文を見つけたら、自分で作ったりする楽しさがあります。回文は、長くなればなるほど、作るのがむずかしくなりますが、できたときのうれしきも大きくなります。

④ 言葉を作っている文字の順番をならべかえて、べつの言葉を作るのが「アナグラム」です。たとえば、「とけい」をならべかえると、「けいと」という言葉ができますし、「くつみがき」をならべかえると、「実がつく木」というひともまじりの言葉ができます。アナグラムには、元の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさがあるのです。

⑤ このように、言葉遊びにはいろいろあり、それぞれに楽しさがあります。言葉遊びをするのには、とくべつなところや、広い場所はいりません。ふだん使っている言葉だけで、楽しい時間をすごすことができます。人々は、昔から言葉遊びを通して、言葉のおもしろさにふれてきました。あなたも、言葉遊びを楽しみましょう。

活動 ●上で線を引いたのは何だんらくから何だんらくの中にありましたか。口の中に書きましょう。

② ~ ④

まとめ **覚えない言葉**

②~④のように「説明が書かれているところ」を「中」という。

①のように「文章のはじめに読む人に問かけるところ」を「はじめ」という。

⑤のように「さい後のまとめやひっしゃ(書いた人)の考えが書かれたところ」を「おわり」という。

※3回読んで、「はじめ」「中」「おわり」という言葉と、だいたいのいみはおぼえましょう。

漢字 ●漢字ドリルの「界」「横」「指」「鉄」を練習しよう。